

「愛でつなく絆」
～愛のうちに神はおられる～

Iヨハ4：7～13

「これも愛、あれも愛、たぶん愛 きっと愛」これは「愛の水中歌」という歌の一節ですが、この歌は私たちの心をよく表しています。「これも愛だろう」「あれも愛だろう」と私たちは色々なことを言い聞かせて生きています。けど本当は乾いた花で誰か水を与えてくださいと心の底では思っています。けれど、身近なところで「これも愛だろう」としてなんとなくやり過ごしているのです。そして渴いた心を埋めるために、自分が自分である場所を捜し求めてしまいますが、それでは結局満足しません。だから探し続けるのです。(Iヨハ4：7～)

「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」(7) 普通なら「神様がこれだけしてくれたのだから神様を愛しましょう」と言いそうですが、ここでは「神様がこんなに愛してくれているからお互いに愛し合おう」と言っています。私たちの愛は「水中歌」の愛です。私たちの愛は、神様のように、見返りも求めず、永遠のものではなく、愛していても憎んだり傷つけあったりしてしまうようなものです。しかし神様は、そんな私たちでいいから互いに愛し合おうと言っています。私たち一人ひとりの中で働いてくれている神様はみんな同じです。だから互いに愛し合おうと言っているのです。互いに愛し合うために**①愛されていることを知る**。この事をぜひ聖書から探してください。探せば見つかります。神様は一人ひとりに愛しているということを言っています。私たちの心には「これも愛かな？」とたくさんの「？」がついています。聖書は「ここに愛がある」と断言しています。「わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。…」(ルカ11：9～11) 愛に「？」がつくような私たちであってもかわいいものはかわいいのです。だから「ここに愛があるのです」という神様はなおさらです。良いものを必ずくれます。自分が愛されているという言葉を見つけてください。**②全てが益になることを受け取る**。①ができれば、全てをプラスに変えてくれると受け取ってください。過去の自分をすべてプラスにしてくれます。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ロマ8：28) あなたが教会に集っていること自体神様のご計画です。私たちが神様を選んだのではなく、神様が私たちを選んだのです。神様は決してムダにされる方ではありません。全てが益になることを受け取りましょう。**③真実を見極める**。蓋をしたりごまかしたりしたくなる気持ちがあるかもしれませんが真実を見極めることが大切です。真実とは「神様が私たちを愛しているがゆえに、イエスキリストと言う御子をこの世に遣わせて、十字架にかかり、死なれ、私たちを新しく生まれさせるために復活された」ということです。そしてこのことを自分で突き止めてほしいのです。聖書に書かれていることが本当かどうか見極めてほしいのです。私たちは色々なことを確認もしないで、生活してしまうので、「これも愛?」「あれも愛?」と「？」がついてしまったままのものがたくさんあります。世の中のことには答えが出ないこともあるかもしれませんが。しかし神様に拠り頼めば必ずどんなことにも答えが出ます。「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハ4：9、10) イエス様は人の病をいやし、奇跡を起こし、よいことしかしていないのに、最後はみんなに罵倒され、途中倒れそうになっても決して十字架を投げ捨てず、十字架の道に進みました。決してあきらめないイエス様は私たちを捨てたりしません。互いに愛し合うために無理に人を愛そうとは一度も言っていません。神様の愛を見つけたら結果、人を愛することができるのです。神様がどんなことをしてくれ、イエス様がどんな人かを知ることで自動的にお互いに愛することができるのです。捜せば必ず見つかります。神の愛を見つけ、互いに愛し合ひいきましょう。(要約者：岩崎祥誉)